

私は2点質問します。

まず、可燃物処理施設建設について質問をします。

12月の鳥取市議会定例会での議論を紹介して、管理者である竹内市長にお聞きします。

その議会で可燃物処理施設について、議論がありました。上田孝春議員が、この施設の地元同意の現状、課題の分析・認識について当局に質問されました。竹内市長は、答弁のなかで、集落ごとの説明状況と残る集落について説明して、最後に次のように答弁されました。

「11月15日には地権者5集落の部落長や役員を中心に「ごみ焼却施設建設問題を検討する会」をあらたに設置される運びとなりました。東部広域との話し合いの窓口となる地元組織ができたということで、これからの花は愛の大きな糸口といたしますか、大きな窓口として機能していくことを期待しております。課題としては、強く反対されている集落のみなさんに何とか話し合いのテーブルについていただくようお願いしていくことだと考えております」という答弁でした。

そこで、管理者である竹内市長に、まずお聞きします。一つは、この5集落とはどこでしょうか。また、地元の誰から報告を受けられたのか、お聞きします。

二点目は、この団体の目的・性格、役員などの組織状況について、どのように把握、理解しておられるのかお聞きします。

三点目は、広域組合との話し合いの「窓口」という意味は何でしょうか。

東部広域は土地購入の交渉窓口として、各集落と合意されているのか、またこの会が、土地購入や建設に関する諸事業の地元承認に関して、各部落から委任を受けているのかどうかについて、この点東部広域は承知されているのか、お聞きします。

次に、ごみの減量化について質問します。

昨年11月定例会で私はごみの減量化について、各市町の負担にもかわることであり、東部広域がどのような方針・目標と計画を持つ必要がある」と質問しました。竹内管理者は、「循環型都市鳥取の実現に向けて一般廃棄物処理基本計画、こういうものを平成16年2月に構成市町と東部広域が一緒につくっている。連携しながら積極的に取り組んでいる。今後とも減量化についてあるいはごみ処理の基本的な統一した考え、共通認識のもとで推進を図りたい」旨の答弁でした。

私は、管理者の答弁からすれば、市町の計画促進の上でも、むしろ積極的に減量の目標と達成年度、そこに向けた対策と計画を立てて取り組むことが必要ではないかと考えます。管理者の所見をお聞きします。